

〔参考資料〕

京都小児科医会発行 小児科ニュース No27. pp21~23

(昭和58年5月23日発行)

A-7 解熱剤についてのアンケート調査結果 (1983.4.)

林 玲 二

先程、諸先生方の御協力を得て実施致しました上記アンケート調査結果がまとまりましたので御報告致します。日常診療の御参考になれば幸いです。(回答総数 154名)

A. 解熱剤の使い方について

a 全く使わない	1
b 内服薬として用いる	4
c 内服薬, 屯服または坐薬	78
d 内服薬, 屯服, 坐薬または注射	15
e 屯服または坐薬のみ	53
f 屯服, 坐薬または注射	3

(注射は時に, 稀に, 緊急時という注記が7名)

B. 屯服または坐薬は体温何度以上で使用するか。

a 37.5°C	5
b 37.8°C	1
c 38.0°C	64
d 38.2°C	1
e 38.5°C	53
f 39.0°C	18
g 37~37.5°C	1
h 38~38.5°C	3
i 38.5~39.0°C	1

注記のあったもの

熱性けいれんの既往者には 37.5°C以上	3
38.0°C以上	2
食欲, 機嫌など一般状態を考慮する	6
母親, 患者がしんぼうできないとき	4
できるだけ使わない	5

C. 現在使用している解熱剤の薬品名 (I, II, IIIは選択順)

1. 内服薬

	I	II	III	計
サリチル酸剤	22	21	6	49
スルピリン	46	16	2	64
アミノピリン	1	3	1	5

	I	II	III	計
フェナセチン		5	3	8
アセトアミノフェン	2		3	5
メフェナム散	17	12	8	37
イブプロフェン	1	3	1	5
ジクロフェナクナトリウム		1	1	2
P L	15	4		19
LLシロップ	1			1
ペレックス			1	1
ブチロン	1			1
ブセタロン		1		1
セデスG		1		1
キョウリンAP		1		1
サリチル酸剤(アスピリン, バファリン, サリチママレット, EA丈, EAC丈, ミニマックス, サチボン, ハイピリン, サルチルアミド)				
スルピリン(メチロン)				
アセトアミノフェン(ピリナジン, アスぺイン)				
メフェナム散(ポンタール)				
イブプロフェン(ブルフェン, ラミドン, スパプロフェン)				
ジクロフェナクナトリウム(ボルタレン, ソレルモン)				
インドメサシン(インダシン, インテバン)				
P L(サリチルアミド, アセトアミノフェンを含む)				
(注記:アスピリンは水痘, インフルエンザ様疾患には使わない 2名)				

2. 屯服

	I	II	III	計
サリチル酸剤	68	25	1	68
スルピリン	32	12	1	45
アミノピリン	3	1		4
フェナセチン	1	2		3
アセトアミノフェン	3	1		4
メフェナム散	4	6	3	13
イブプロフェン	1	1		2
インドメサシン		1		1
ジクロフェナクナトリウム		1	1	2
P L	6	1	1	8
ペレックス			1	1
ブチロン	2	3	2	7
オイヒニン	1	1	1	3
セデスG	2			2
MA丈	1			1

3. 坐 薬

	I	II	III	計
イルピコ	39	5	2	46
アスピリン	9	2	1	12
スルピリン	56	8	3	67
アミノピリン	11	4		15
アセトアミノフェン	15	6		21
インドメサシン	10	26	8	44
ジクロフェナクナトリウム	7	10	2	19
オキシフェンブタゾン	1	3		4

イルピコ(塩酸キニーネ, アミノピリン, サリチルアミドを含む)

アスピリン(サリチゾン, フルマイド)

スルピリン(メチロン, エスピレ, ソルピリン)

アミノピリン(ママレットA, オデシン, インスト, バリオメール)

アセトアミノフェン(アンヒバ, アルピニー)

インドメサシン(インテパン, インダシン)

ジクロフェナクナトリウム(ボルタレンサポ)

オキシフェンブタゾン(タンデリール)

4. 注 射

スルピリン	33
オベロン	2
ネオスペロン	1
N A	1

D. その他の解熱剤

氷枕, 氷のう	18
水分補給(冷たい水)	9
室内, 衣類の調節	3
浣腸	2
輸液	1
水浴, スポンジ浴指導	2
氷をビニール袋に入れ, タオルにくるみ 腋窩部に入れる	1
頸動脈に近いところに氷のう	1
アルコール綿, または水で皮膚マッサージ	1